

# 民の力で芸術・文化を支援 「アーツサポート関西」への期待

都市に活気と創造性をもたらすべく、市民自らの手でアーティストを支援し、鑑賞者の裾野を広げる新たな民間組織「アーツサポート関西」が4月1日にスタートする。運営委員長の鳥井信吾氏と、音楽界を中心に広く活躍する川井郁子氏に、芸術・文化のもつ力や若いアーティストたちの思い、それをバックアップする意義について当協会の堀井理事長が伺った。

## 文化は都市活力の源泉

**堀井** 今回は、ヴァイオリニストで大阪芸術大学教授の川井郁子さんと、関西経済同友会代表幹事でアーツサポート関西(ASK)運営委員長の鳥井信吾さんをお招きし、関西・大阪の文化力向上やアーティスト支援についてお話を伺います。私は、芸術・文化の振興はまちの活性化に不可欠であり、政策の優先課題にすべきと思っています。海外の例でいえば、フランスのナントは官民連携による文化戦略で深刻な経済衰退から蘇り、スコットランドのエジンバラは、一年を通じて芸術・文化の祭典を展開し莫大な観光収入や雇用を生み出しています。また、イタリア

のベニスで行われる大文化イベント「ビエンナーレ国際美術展」も、世界各国から観光客を呼び込んでいます。海外での演奏活動のご経験も踏まえ、川井さんほどのように感じられますか。

**川井** ヨーロッパでは、コンサートであれ、展覧会であれ、観客は単なる受け手ではありません。芸術を楽しんでいる自分こそが主役だという積極的な姿勢を感じます。私がコンサートで「ロマンス」を弾きはじめると、聴いているカップルがとたんに手を握り合い、こちらがあてられるほど。彼らには日本とは違う熱気や華やきがあり、どちらが舞台の人が分

からないくらいです。クラシックは生活に根付いており、路上での演奏を通り過ぎる人が聴き入っている姿を目にすることも多いですね。こうしたムードのなかで、アーティストが育てられているのです。

**鳥井** 私は、2011年9月にエジンバラフェスティバルを視察しました。世界中からさまざまなアーティストが集結し、それを観るためヨーロッパ中から100万人もの観光客が押し寄せる一大アートイベントです。中世の重厚な佇まいを残すエジンバラ城を中心に、現代の文化・芸術との相乗効果で、町中が文化のエネルギーで溢れている印象を受けました。大阪にも大阪城という素晴らしい歴史遺産があるのですから、これに文化的な要素を結びつけ、活かさない手はないと思います。

**堀井** 文化が多くの人々を魅了し惹きつけ





## 川井郁子(かわい いくこ)氏

ヴァイオリニスト、作曲家、大阪芸術大学教授

ることで、まちに生き生きとしたエネルギーが生まれます。川井さんがよく行かれるウィーンも、多くのクラシックファンで賑わっているのでしょう。

**川井** ウィーンといえばウィーン・ヨハン・シュトラウス管弦楽団やザルツブルグ音楽祭など、クラシックファンなら誰でも知っている楽団や音楽祭が数多くあります。感心するのは、それらをアピールするプロデュース力に長けていることで、だからこそ世界中の関心を集めているのだと思います。

### 芸術・文化が持つ力

**堀井** 私の知り合いのソプラノ歌手は、東日本大震災の仮設住宅で慰問演奏会をしたとき、聴いていたお年寄りの女性から、「震災で生きていく元気をなくしたけど、こんなに素晴らしい歌声が聴けるなら、これからも頑張って生きようと思う」と言われたそうです。9.11(米国同時多発テロ事件)の直後、瓦礫のなかでひとりヴァイオリンを弾く青年がいて、身内を亡くして悲嘆にくれる人や救助活動を行っている人たちが元気づけられたという話もあります。音楽には、このように人を元気にする力がありますね。

**川井** 私もウガンダやタイの難民キャンプで、音響装置など何もない屋外の樹の下で演奏したことがあります。多くの人たちが集まって来てくれて、なかでも子どもたちが目を輝かせて

聴いてくれました。極限状態に置かれた人たちが音楽に聴き入るようすを見て、私はヴァイオリンの音色に魅せられた子どもの頃の気持ちを思い出し、逆にこちらが元気づけられるようでした。東日本大震災のチャリティーコンサートでも、お客様は被災地の方々への思いをひとつにして聴いてくださいます。こうした演奏会は、音楽が人の心に届いていることをとくに強く感じますね。

**堀井** 子どもたちに素晴らしい芸術・文化を体験させることはとても大事だと思います。鳥井さんは文楽などをもっと子どもに見せるべきだとおっしゃっていますね。

**鳥井** 子ども時代に体験しておかないと、大人になってから急に文楽に親しもうといわれても難しいですからね。日本は明治維新以降、

西洋文化に圧倒されて、大切な伝統文化が忘れられてきたように感じます。とはいえ、全国の幼稚園では今でも「節分の鬼追い(豆まき)」や「ひなまつり」「端午の節句」「七夕まつり」などが行われ、子どもたちは四季折々の伝統催事に触れています。実は古い日本の伝統は、現代の子どもたちにも生きているのです。日本人には今一度忘れられたように思える日本文化を受け入れる心の準備はいつでもできているのだと思います。

**堀井** 新渡戸稲造も100年前に同じことを言っています。「一見、西洋文化が幅を利かせているようだが、日本文化は日本人の心のなかにずっと受け継がれている。だからその漂ってくる薫りを生かして今の暮らしを豊かにしていくべきだ」と。

**鳥井** バーやレストランもいいですが、やはり居酒屋さんの人気が根強いのは、和風の雰囲気や寛ぎたいという気持ちが根底にあるからでしょう。

**川井** 私も編曲をするとき、どうしても尺八や和太鼓を入れたくなるときがあります。西洋楽器にはない独特のグルーブ(高揚感)がありますからね。和楽器の音色で心が熱くなるのは、やはり日本人なんだなと思います。そうやって作った曲をカーネギーホールで演奏したときは、想像以上に大きな反響がありました。日本人ならではの世界観があるということで、フィギュアスケートの音楽に使っていただくこともよくあります。

### 経済力を弱めている遠因

**堀井** 日本人の細やかな感性は、ものづくりでも活かされています。最近ではイノベーションという言葉がよく使われますが、新しいひらめきを得るためには感性も重要です。音楽を聴いたり、絵を観たり、ものづくりや利益追求とは無関係と思えることも、じつは経済発展と関係が深いことに気づくのです。

## 鳥井信吾(とりい しんご)氏

一般社団法人関西経済同友会 代表幹事  
サントリーホールディングス株式会社 代表取締役副社長  
アーツサポート関西 運営委員長



オペラ座(ウィーン)





エジンバラ城(スコットランド)



## アーティストに寄り添った支援

**堀井** 今年4月1日より、関西・大阪の文化を民の力で盛り上げようという新たな支援組織「アーツサポート関西(ASK)」がスタートします。2012年に関西経済同友会の「歴史・文化振興委員会」が大阪版アーツカウンシルを提言したのが発端で、鳥井さん

**鳥井** 関西経済同友会の「技術とデザイナーものづくり強化委員会」では、厳しい国際競争に勝つためには、知識や技術に加えて文化、教養、感性も備えていなければならないと提言しています。戦後日本が発展してきた時代には、松下幸之助さんや小林一三さんといった文化に造詣が深く、社会的発言力や道徳観にも秀でた経営者のもとで独創的な製品やシステムが生まれました。しかし、バブル崩壊後の余裕のない経済環境のなかで、人々の文化に親しむ気持ちは希薄になってきたように感じます。文化と経済は車の両輪だという観点で言えば、日本の経済力を弱くしている遠因は、文化や教養を軽視あるいは敬遠したことにあるように思います。

**堀井** 大阪は古くから文化や社会貢献に対する理解が深い土地柄で、商人には、経済活動は社会貢献をするためだという考えがあり、それを家訓や社訓にしてきました。歌舞伎俳優の坂田藤十郎さんや片岡愛之助さんは、「大阪のお客様はノリが良く、演者と観客が一体になって芝居が大いに盛り上がる」とおっしゃっています。昔から大阪には文化を応援しみたいという素地があるんですね。川井さんがおっしゃったヨーロッパ人的気質と相通じるものがあるように思います。しかし、明治維新以降、芸術は楽しむものというより、奉って勉強するものという感じになってしまったのは残念です。

**川井** それは私も感じます。日本でクラシックコンサートという堅いものだと思ってお客様が身構えてしまわれることが多いです。しかし、大阪ではそういうムードを感じません。お客様は最初から温かく、演奏が進むにつれてさらに熱気を帯び、それに演奏者が乗せられる感じが心地よいですね。

輪」という理念のもと、都市に創造性と活気をもたらすべく、市民自らの手で文化を支援しようという取り組みです。最近、国や自治体が音楽や舞台芸術などの文化活動に対して助成金を分配する官主導のアーツカウンシル制度ができました。ASKも美術・デザイン、音楽、演劇、ダンス、映像・映画、伝統芸能などの分野に助成を行っていくものですが、官製のアーツカウンシルと異なるのは、例えば「オペラを支援したい」「ヴァイオリニストを支援したい」といったように、寄付者の意向に沿って寄付金の使途を“見える化”することで、アーティストに一層寄り添った支援を行っていくことです。公益財団法人である関西・大阪21世紀協会が事務局となって寄付金の受け皿となりますので、寄付者に対して税の優遇措置(寄付金を税の控除対象とする)も適用されます。川井さんはこうしたASKの取り組みをどのように思われますか。

**川井** アーティストにとって、すごくありがたいことです。大阪芸術大学で教えていて思うのですが、学生たちは一生懸命勉強して夢を抱いて入学するのですが、その後は就職など将来に対する不安が大きくなり、当初の目標を見失いがちになります。私も学生時代に感じていたことですから、その気持ちはよく分かります。だからこそ学生たちには、目標となる発表の場を作ってあげたいのですが、そうした機会がとても少ないのが現状です。また、アーティストや学生は、実験的なことや新しい可能性を披露する機会がほとんどありません。コンクールで受賞した課題曲を発表するだけでなく、新しい演奏や作品を発表する機会がもっと増えれば目標が生まれ、音楽に携わる意欲も増すでしょう。

**鳥井** 頑張って技術を身につけても、仕事や社会に活かす

機会が少ないとなると、学生たちの不安は増えますよね。

**川井** アーティストの需要がとても少ないのです。だから発表の機会を増やすと同時に、お客様が聴きたくなるようなムーブメントを起こして需要を掘り起こすことも重要です。芸術ってこんなに面白くて楽しいんだということを上手く伝え、アーティストとお客様をつなぐ感性豊かな人を育ててほしいと思います。

**鳥井** 芸術・文化の広報力やプロデュース力を高めることが必要ですね。例えば作品の見どころや聴きどころを楽しく分かりやすく解説して、作品に対する興味を喚起するような、アーティストを支援する人をサポートすることも大事だと思います。そうやってファンを増やせば、アーティストのモチベーションも上がるし、ひいては経済効果も期待できるでしょう。

## 寄付文化の醸成を

**鳥井** 例えば週1回でも月1回でも、会社に大阪芸術大学の学生さんに来てもらってコンサートを開き、「大阪の企業は従業員が芸術に触れることを奨励するのが当たり前」というような評判が立てば、大阪に対する印象も変わるでしょう。それを継続することで芸術・文化への関心が高まり、サポートしようという気運も生まれてくると思います。日本酒で乾杯をする条例があるくらいですから、「芸術鑑賞条例」を作ってもいいのではないのでしょうか。アーティストの仕事を増やすまでには至りませんが、芸術に触れる機会を増やすことにはなるでしょう。

**堀井** それは面白そうですね。日々の大半を会社で過ごす人にとって、会社が文化化されることはとても大事だと思います。普段の生活に密着し、皆で感動を共有する運動も進めたいですね。

**川井** ランチタイムにコンサートを開催すれば、ホールで聴くよりリラックスした雰囲気です。そうしてクラシックを楽しむ習慣を養い、コンサートにも気軽にお越しいたきたいです。

**鳥井** 企業は従業員一人ひとりのモチベーションによって支えられ、その集合が大きな成果を生み出します。企業人のモチベーションは給料やポストだけでなく、芸術・文化によって高まるものだと思います。

**堀井** 文化は与えられるもの、どこからか降ってくるものとは思わずに、自ら参画して創っていくものだという意識を持ってもらいたいですね。たとえ少額でも芸術・文化に寄付をすれば、アーティストにもっと関心を持ってもらえるし、そうした寄付文化を醸成することで観客の広がりや芸術・文化の質の向上にもつながります。ASKはそういう運動をしたいと思っています。

**川井** 私は学生に、音楽をするために自分がいるのではなく、自分を表現するために音楽がある。自信を持って取り組んでほしいと言っています。また、先生に習ったことをおさらいするばかりではなく、大学に入ったら色々な可能性を追求してほしい。



堀井良殷 (ほりい よしたね)

公益財団法人関西・大阪21世紀協会 理事長

い。芸術大学には、音楽だけではなく美術や映像、身体表現などいろいろな学部があります。音楽にも洋楽・邦楽があり、さまざまな楽器があります。そうした異分野との交流も積極的に行い、実験することで自分が見えてくることもありますから、学生にはどんどんそういう経験を積み、新しい自分を見つけて夢をもって進んでほしいと言っています。ASKにご支援をいただくと、学生たちに夢を与えることにもつながります。

**堀井** いよいよASKの活動がスタートします。すぐに効果が表れるかどうか分かりませんが、息の長い活動にすることで5年、10年経てば必ず成果が出てくると思います。今後とも関西・大阪の文化力の向上にお力添えをいただきますよう、よろしく願いいたします。本日はありがとうございました。

## 川井郁子氏

ヴァイオリニスト、作曲家

大阪芸術大学教授

香川県出身。東京芸術大学大学院修了。大阪芸術大学教授。国内外の主要オーケストラをはじめ、ポップス系アーティストやバレエダンサーなどとも共演。映像音楽の作曲も手がけ、2013年、映画「北のカナリアたち」で第36回日本アカデミー賞最優秀音楽賞を受賞。「川井郁子Mother Hand基金」の設立や、UNHCR協会国連難民親善アーティスト、日本ユネスコ国内委員会委員を務めるなど社会奉仕活動にも参画。

## 鳥井信吾氏

一般社団法人関西経済同友会 代表幹事

サントリーホールディングス株式会社 代表取締役副社長

アーツサポート関西 運営委員長

1953年生まれ、甲南大学理学部卒業。南カリフォルニア大学大学院理学修士修了。伊藤忠商事株式会社を経て1983年6月サントリー株式会社入社。取締役生産企画部長、代表取締役専務取締役 SCM本部長を経て、代表取締役副社長。関西経済同友会では常任幹事、「歴史・文化振興委員会」委員長を務め、2012年5月に代表幹事就任。



# アーツサポート関西 運営の仕組み

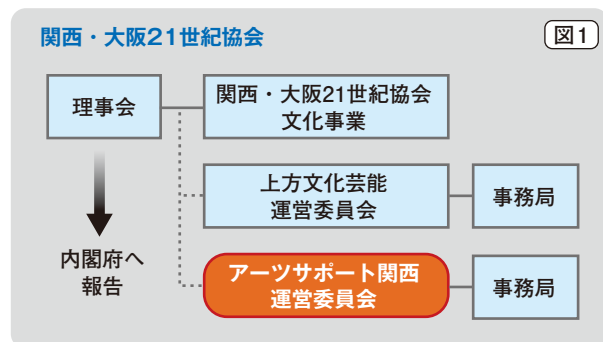
## 民による芸術・文化支援スタート

2014年4月1日、民による新しい芸術・文化支援の仕組みアーツサポート関西 Arts Support Kansai (ASK) がスタートします。市民からの寄付を有効に活用し、関西が蓄積してきた優れた芸術・文化を支援することにより、世界へ発信できる関西らしい芸術・文化を育てていきます。代表発起人は、経済界・文化人より下記の方々を迎え、関西の文化力の向上を目指します。

鳥井 信吾	関西経済同友会代表幹事
加藤 貞男	関西経済同友会代表幹事
佐藤 茂雄	大阪商工会議所会頭
森 詳介	関西経済連合会会長
千 玄室	裏千家第十五代・前家元
佐渡 裕	指揮者
安藤 忠雄	建築家

(敬称略、承諾順、肩書きは2014年3月現在)

事務局は公益財団法人 関西・大阪21世紀協会内に置き、協会のこれまでの事業とは独立し、別会計で運営します(図1)。



ASKのかじ取りは運営委員会が行い、ASKのビジョンや予算・決算、助成についての審議を行います。

### 運営委員

天野 文雄	大阪大学名誉教授
小嶋 淳司	がんこフードサービス株式会社会長
建島 哲	京都市立芸術大学学長 / 埼玉県立近代美術館館長
寺田 千代乃	アートコーポレーション株式会社代表取締役社長
◎ 鳥井 信吾	サントリーホールディングス株式会社代表取締役副社長
西岡 信雄	大阪音楽大学名誉教授 / 前大阪音楽大学学長
山本 雅弘	株式会社毎日放送相談役最高顧問

◎は運営委員長 (敬称略、五十音順、肩書きは2014年3月現在)

助成対象エリアは、関西元気文化圏に準じ、京都府、大阪府、滋賀県、兵庫県、奈良県、和歌山県、福井県、三重県、徳島県、鳥取県の2府8県に拠点に置くか、これらの地域で活動する芸術・文化の事業や団体が対象となります。

## 市民が関西のアートや文化をサポートしていくプラットフォーム



ASK発足の記者会見にて、左から山本雅弘、鳥井信吾、川井郁子、堀井良殿の各氏 (2月5日 国立国際美術館)

ASKは、市民の力によって関西のアートや文化をサポートし、育てていくための場=プラットフォームです。アートや文化の「受け手」と「送り手」の双方が主役=プレイヤーとなり、支援したり、支援を受けたり、あるいは、さまざまな形でコミュニケーションを深め、一緒に考え、支援します。

このプラットフォームを通して寄付をすれば、自分の好きなアートや文化のジャンル、あるいは団体などを直接支援することが可能となるほか、個人でも、法人でもそれぞれ税金の優遇措置が受けられます(図2)。

### ASKへの寄付に対する税の優遇措置

- 法人 次のいずれか少ない額が損金に算入
    - ・特定公益増進法人に対する寄付金の合計額
    - ・特別損金算入限度額
    - = (資本金等の額×事業年度の月数/12×0.375%+所得金額×6.25%)×1/2
  - 個人 次の所得控除または税額控除のいずれかを選択
    - ・所得控除: 寄付額\*1 - 2,000円 = 寄付金控除額
    - ・税額控除: (寄付額\*1 - 2,000円) × 40% = 寄付金特別税額控除額\*2
    - ※1: 年間所得の40%まで ※2: 所得税額の25%が限度
  - 遺産寄付(遺贈) 全額控除
- ※詳しくは最寄りの税務署等にご相談ください。

従来の芸術・文化の支援制度は、運営する側が一括して支援先を決めてきました。芸術・文化の一方の主役である鑑賞者が関与できる余地はほとんどありませんでしたが、ASKはこのやり方をガラリと変え、市民のみなさんにアートや文化の育成に直接かかわっていただく取り組みを進めていきます。

## 誰もがアートのパトロンに!

ASKへの寄付の仕組みは、金額に応じて1,000円～、5万円～、500万円～と3段階の構成になっています。

1,000円以上の寄付で「分野指定寄付」が行えます。自分が寄付をしたい分野を、美術・デザイン、音楽、ダンス、演劇、映像・映画、伝統芸能、複合的なジャンル、そして指定なしの8つのカテゴリから選べます(図3左)。

5万円以上のものについては、誰でも自分の名前などを冠した「個別寄金」をつくることができます(匿名も可能)。「個別寄金」を設置すると、上記の8つの分野に加えてご自分が助成したい表現ジャンル(オペラ、現代美術、能楽等)の希望設定が可能になるほか、特定の団体等を指定できる「特定型 個別寄金」を設けることができます(図3右)。

500万円以上の高額寄付については「個別寄金」の設定

に加えて、「継続基金」もしくは「期間基金」のいずれかの運用タイプが設定できるようになります。「継続基金」は元本を取り崩さずに運用益だけで助成し、「期間基金」は期間を設定しその期間内で元本と運用益で助成します。

「個別寄金」のパトロンは、助成後に、自分のお金で支援したアーティストたちと交流することもできます。いわば志のある市民が関西のアートをサポートするパトロン(=タニマチ)となるのです。パトロンとなって楽屋を訪問したり、練習に立ち会うなどして、アーティストとコミュニケーションを深め(※)、身近にアートや文化に接していただける機会を提供します。

(※パトロンのプログラムについては、アーティストの意向を尊重して事務局がご提供させていただきます。場合によってはご要望に添えないことがあります。)

## アーティストに寄り添った創造的支援を!

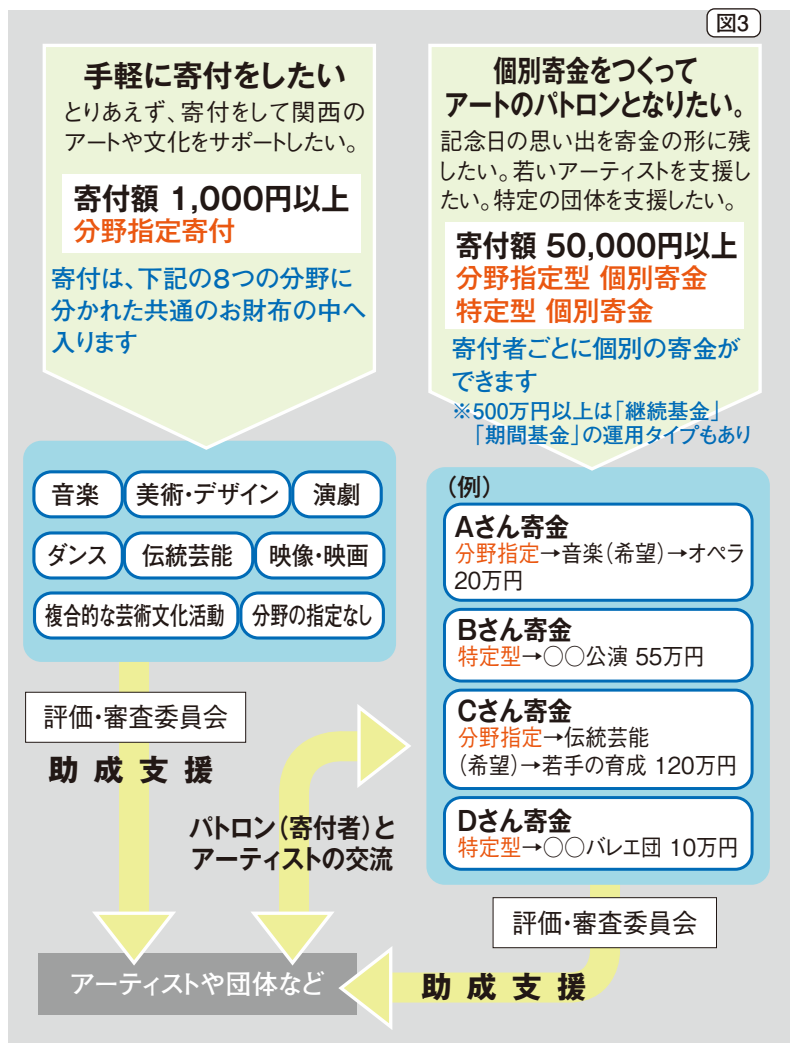
ASKの活動は単に寄付を集めるだけではありません。アーティストに寄り添った創造性のある支援を目指します。既存の枠組みに収まらないジャンル横断的な活動や発表の機会が少ない実験的な試みなども積極的に支援していきます。

## 審査と評価

助成の審査にあたっては、アートや文化の専門家によって構成された評価・審査委員会が、審査にあたります。助成の申込みは、個別寄金に対して行われます。募集にあたってはすべての寄金をホームページ上で公開し、助成を希望するアーティストや団体は、その中から自分の要望や活動にふさわしいものを選んで申請します。評価・審査委員は、いわばアーティストと寄付者を取り結ぶ仲人のような役割を担います。

評価・審査委員は、プログラム・ディレクターを兼務し、関西のアートの状況や課題を事務局と共有しながら、支援した事業の評価を行います。その結果は、寄付者にフィードバックされるほか、今後の支援活動にも活かされます。

みなさまのご協力とご参加を心よりお待ちしております。



アーツサポート関西 事務局

〒530-6691 大阪市北区中之島6-2-27 中之島センタービル29階

公益財団法人 関西・大阪21世紀協会内

Tel: 06-7507-2002 Fax: 06-7507-5945 E-mail: ask@osaka21.or.jp

# 関西における民間アーツカウンシルの

## 英国で誕生

アーツカウンシル (Arts Council of Great Britain : ACGB) は、1946年に英国で誕生し、60年以上の歴史があります。ACGBの初代会長である経済学者のJ.M.ケインズは、その理念をこう語っています。「私たちの最初の目標は、戦争（第二次世界大戦）が私たちから奪い取ったものを取り戻すことでした。私たちは憲法で独立が保障され、官僚主義に束縛されず、しかし国庫から資金提供を受ける永続的な機関となるのです。行政組織の仕事は、彼ら（アーティスト）を指導したり、検閲したりすることではなく、勇気と自信とチャンスを彼らに与えることなのです」。ナチス・ドイツが芸術を政治利用したことにも異論を唱え、芸術表現の独立性を維持するために、行政とは一定の距離を保ち、独自の運営や裁量が認められるべきという「アームズ・レングス」の法則を提唱しました。現在も英国政府（文化・メディア・スポーツ省）はこの原則に則り、アーツカウンシルを専門機関として尊重し、予算を支出しても、その使い道は委ねています。

これまで、労働党と保守党で政権が変わるたびにアーツカウンシルへの予算は大きく増減しましたが、非政府公共機関として独自に機能し、現在に至っています。職員は元美術館学芸員などを含む芸術分野の専門家420人（2013年7月）。予算は2011年度が約6億ポンド（940億円）、2012年度は美

術館や博物館の予算、教育省の補助金も加わり、総額約7.4億ポンド（1100億円）に増額されています。イングランドを5つのエリアに分けて運営されており、2012年度は、公募に申請した1333団体から696団体を採択し、約3.1億ポンド（495億円）を支給しています。また、助成事業だけではなく、戦略的な資金提供や幅広い調査研究事業にも取り組み、つねに高い自己改革意識を持って事業に臨むなど、英国モデルは日本のアーツカウンシルにとって大いに参考になります。

## 日本の現状

日本には、文化庁の外郭組織で芸術文化振興基金（約600億円）を運営する「独立行政法人日本芸術文化振興会」があります。英文名で「Japan Arts Council」といいますが、英国のアーツカウンシルとは趣きが異なっていました。

同振興会では、文化芸術に対する助成事業を有効に機能させるため、2011年度より20人程度のプログラムディレクターやプログラムオフィサーと呼ばれる専門家を配置しています。2013年度は、文化庁のトップレベルの舞台芸術創造事業（音楽、舞踊、演劇、伝統芸能、大衆芸能、映画）の助成対象となった公演を観たり、芸術団体にヒヤリングして評価や審査の機能を充実させるとともに、助成プログラムの改善を視野に入れた取り組みを行っています。2013年度は457件の応

ASKIに期待!

「アーツサポート関西」への応援メッセージ



● 入谷 幸子(いりだに さちこ)氏  
ピアニスト

演奏家にとって、演奏する場があり、それを聴いてくださる方がいることは大きな支えであり喜びです。このようなチャンスを求めている新進芸術家が、それぞれの活動に対する経済的支援を得られるアーツサポート関西の体制が広く知られ、芸術・文化振興の担い手として大きく発展していくことを心より期待しております。



● 片岡 リサ(かたおかりさ)氏  
箏奏者/大阪音楽大学講師

アーツサポート関西の誕生、おめでとうございます。大阪で生まれ育ち、現在も大阪に住み音楽活動を続ける私にとって、関西の文化力が高まることは本当に嬉しく思います。演奏家とお客様の思いがひとつになった素晴らしい舞台を作り、日本で最高の芸術をこの関西から発信していきましょう!



©HIKAWA

● 岩谷 祐之(いわたに ひろゆき)氏  
ヴァイオリニスト/関西フィルハーモニーコンサートマスター

アーツサポート関西の支援により、若いアーティストの活躍の場が増えていくことに大きな喜びを感じています。今まで、資金面の問題から自由な活動をできずにいた個人や団体にとって、今回のASK発足はまさに希望の光になると思います。関西から世界へ! 未来はきっと明るいでしょう。



● 桐竹 勲十郎(きりたけ かんじゅうろう)氏  
文楽人形遣い

関西の文化、芸能を支えてくださる「アーツサポート関西」に大いに期待しております。新しい火をたくさん灯し、伝統ある火を消さぬよう、多くの方々のご支援をお願い申し上げます。



# 可能性

## 吉本光宏氏

株式会社ニッセイ基礎研究所 主席研究員・芸術文化プロジェクト室長



(写真撮影：杉全泰)

募のうち322件が採択され、約31億2800万円の助成金が交付予定です。780件に約15億7450万円の助成金交付を予定している芸術文化振興基金の助成事業でも同様の取り組みが始まりました。こうした試みはまだ始まったばかりですが、日本のアーツカウンシルは今、大きく前進しようとしています。

一方、東京都(東京芸術文化評議会、アーツカウンシル東京[公益財団法人東京都歴史文化財団])や横浜市(アーツコミッション・ヨコハマ[公益財団法人横浜市芸術文化振興財団])、大阪府・市(大阪アーツカウンシル)、沖縄県(沖縄文化活性化・創造発信支援事業[公益財団法人沖縄県文化振興協会])でも、それぞれ独自のアーツカウンシル事業を推進しています。また、企業メセナ協議会の調査によると、2012年度にメセナを行った民間企業や企業財団などの活動費総額は約810億円で、文化庁の予算(約1000億円)に迫る規模になっています。

### 民間アーツカウンシルへの期待

私は、関西における民間アーツカウンシルに、6つのことを期待しています。1つめは、例えば公益財団法人である関西・大阪21世紀協会のような組織に対する寄付には税制優遇(寄付が所得税控除の対象となる)がありますので、これを活用して民から民への資金の流れを促進してほしいということ。

2つめは芸術文化活動に対する助成申請手続きの簡素化、複数年助成、概算払い(助成金の半額程度を事前に支給)など、助成を受ける側に寄り添った制度設計がされていること。3つめは人員やノウハウに乏しい小規模な企業財団への情報提供や相互交流を担う「センター機能」を担ってほしいということ。4つめは評価や戦略構築に加え、芸術文化活動のトレンドや環境変化に沿った柔軟なプログラミングを行うシンクタンク機能を備えていること。5つめは例えば企業の遊休不動産を稽古場や作品発表の場に提供することを仲介するような中間支援機能を担うこと。6つめは、「芸術文化のためのメセナ」から「社会のためのメセナ」という考え方にに基づき、市民からの支持を広げつつアドボカシー(政策提言・政策誘導)活動を行うことです。そうすることで、芸術文化活動はアーティストのためだけのものではなく、教育や福祉、地域再生など、社会をより良く変革する力ともなるはずです。

(2013年10月15日 / 21caféより)



### 塚原 悠也(つかはら ゆうや)氏 現代美術家

とにかくアーティストがもう少し多く稼げるというのと、仕組みについて日々考えています。この制度によって、そこを全部変えて欲しいとまではいいませんが、でもせめて毎月今の2倍強、大卒の初任給くらいは欲しいかなあ。これだけやってるし。海外公演から帰国するたびに、向こうのアーティストとの待遇の違いを痛感しています。



### 春野 恵子(はるの けいこ)氏 浪曲師

大阪が誇るエンターテインメント「浪曲」を世界へ!その夢を実現させるためにクラウドファンディング(CF)で500人近い皆様から御支援を頂き、ニューヨーク浪曲公演を行いました。皆で同じ想いを共有できるのが嬉しいシステム。アーツサポート関西でもWEB寄付やCFを行うとのこと。現代にフィットした新しい文化支援のスタートにワクワクしています!



### 名和 晃平(なわ こうへい)氏 彫刻家

市民中心の文化支援がまちに広がり、また、作家に寄り添いながらサポートを行うことによって、関西で活動、活躍するアーティストの励みとなっていくことと思います。アーツサポート関西が今後、関西の芸術・文化活動の底上げとなることを期待します!



### 三宅 砂織(みやけ さおり)氏 美術作家

アーツサポート関西設立おめでとうございます。豊かな歴史を持つ関西で、芸術・文化の新しい生態系を作ることは、非常に意味深いことだと思います。ここからいわゆる美人投票ではない、他にはない価値が生み出されることを期待します。

(五十音順)